課題名	28. 岩崎早生の標高別果実特性について
成果の要約	標高 200 mの果実にくらべ、60mの果実が果実の着色、酸含量の減少ともに、約10日早かった。

成績概要

昭和54年4月に西海町の標高 200 mと 60 mの園地に高接ぎされた岩崎早生の果実形質を昭和57年、58年、59年、60年の4か年、時期別に調査した。

1）果実の着色は、標高 200 mの果実にくらべ、60 mの果実が早かった。

2）酸含量の減少については、標高 60 mの果実が早かった。

3）糖度については、標高別の差は明らかではなかった。

第1表　果皮の着色（着色歩合）

標高	調査月日	57年	58年	59年	60年
60 m	9／20	2.0	2.0	0.5	0.7
	10／1	6.4	1.6	3.8	2.8
	10／10	8.6	7.8	6.8	4.8
	10／20	—	8.2	7.4	8.2
200 m	9／20	1.6	1.1	0.6	0.4
	10／1	—	1.6	2.6	0.5
	10／10	9.0	7.4	3.5	2.6
	10／20	—	9.4	7.8	7.4

第2表　果汁の酸含量（g／100mℓ）

標高	調査月日	57年	58年	59年	60年
60 m	9／20	1.06	0.84	1.26	1.18
	10／1	0.96	0.83	0.89	1.01
	10／10	0.85	0.77	0.87	0.92
	10／20	—	0.73	0.89	0.76
200 m	9／20	1.27	1.22	1.52	1.51
	10／1	—	1.01	1.12	1.17
	10／10	0.93	0.81	1.12	1.07
	10／20	—	0.67	0.96	0.81

第3表　果汁の糖度

標高	調査月日	57年	58年	59年	60年
60 m	9／20	8.9	7.9	8.3	8.8
	10／1	9.5	8.1	9.3	9.1
	10／10	10.0	9.1	10.2	9.2
	10／20	—	9.0	11.5	9.5
200 m	9／20	9.8	8.8	8.5	9.0
	10／1	—	8.8	9.7	8.8
	10／10	10.4	9.3	9.6	9.2
	10／20	—	9.5	11.8	10.0

（長崎県果樹試験場）

普及上の留意点	標高の高すぎる地帯での栽培はさける。